

# 情報リテラシー教育支援活動



(神大図シスターズ)

事例報告者:神戸大学附属図書館  
情報サービス課情報リテラシー係  
山田 友美

# 内容

1. 神戸大学について
2. 「情報基礎」について
3. 「情報基礎」の歩み
4. 2007-2008年の経緯①
5. 2007-2008年の経緯②
6. 「情報基礎」(2008)の内容
7. 「情報の活用」(2008)の内容
8. まとめ

# 1. 神戸大学について

## 概要:

11学部、13研究科、1研究所

学生数: 約17,000人

教職員数: 約2,500人

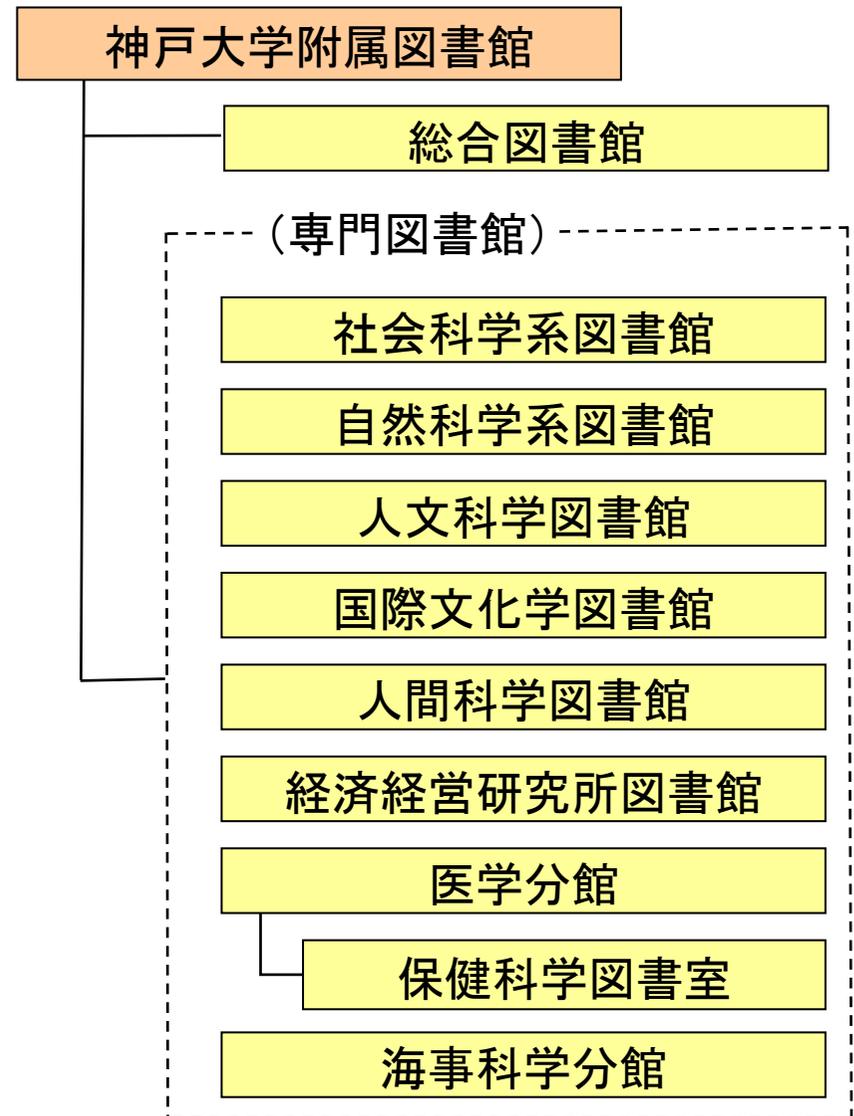
キャンパス: 4つ

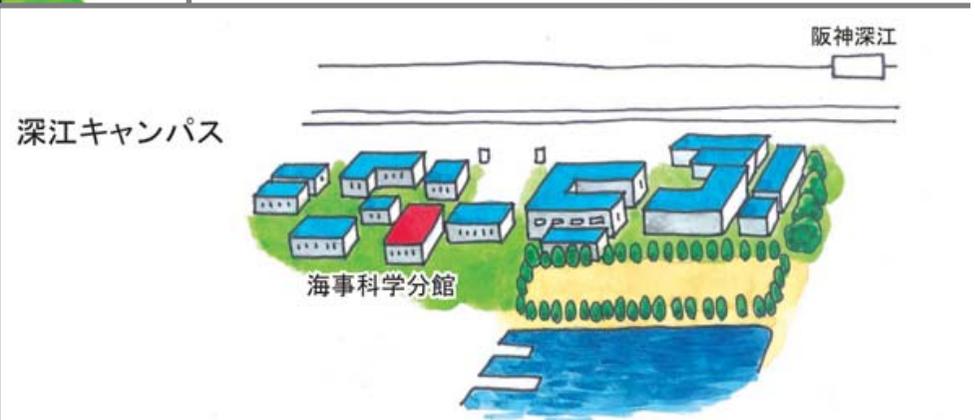
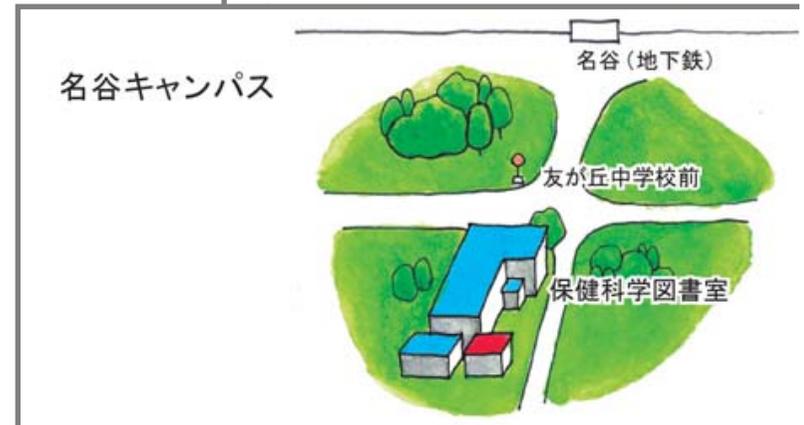
## 附属図書館:

総合図書館と9つの専門図書館

図書館員: 約90人

蔵書数: 約3,500,000冊





## 2. 「情報基礎」について

- 全学共通授業科目(全学部・研究科より696人の教員が分野ごとの部会に所属し担当)の中の情報科目
- 新入生向けの必修科目
- 担当教員:情報科学部会に所属する教員41名
- 受講者は 約2,700人 24クラス (2008年)
- 1単位、全6回を前期期間中に
- 目標  
学生がコンピューターの操作技術を修得し、情報とその取り扱いに関する正しい判断力を養い、学生がコンピューターを勉学に活用できる能力を身につけることを目指す。

# 情報基礎 授業日程表

2009

	Mon	Tue	Wed	Thr	Fri
1	U866 経営学部A(K503) 森下,竹田;古澄 4/14 4/28 5/19 6/02 6/16 6/30	-	U876 医学部(医学)(K503) 熊本;井上 4/16 4/23 4/30 5/14 5/21 5/28	-	-
	U867 経営学部B(K503) 竹田,森下;日置 4/21 5/12 5/26 6/09 6/23 7/07	-	U877 医学部(保健)(D618) 安藤,村尾;正井 4/16 4/23 4/30 5/07 5/14 5/21	-	-
2	U868 発達科学部A(K503) 嶋野,清光;高橋 4/14 4/28 5/19 6/02 6/16 6/30	-	U878 工学部(電気電子)(K503) 熊本;相馬 4/16 4/23 4/30 5/14 5/21 5/28	U883 法学部B(K503) 塚本;烏野 4/17 5/01 5/22 6/05 6/19 7/03	-
	U869 発達科学部B(K503) 嶋野,清光;青木 4/21 5/12 5/26 6/09 6/23 7/07	-	U879 工学部(機械)(D618) 安藤;日和 4/16 4/23 4/30 5/07 5/14 5/21	U884 法学部A(K503) 塚本;烏野 4/10 4/24 5/08 5/29 6/12 6/26	-
3	U870 工学部(建築・市民工学)(K503) 大月,清光;佐藤 4/14 4/21 4/28 5/12 5/19 5/26	U873 農学部(食料環境, 資源生命)(K503) 佐藤;横山 4/15 4/22 5/13 5/20 5/27 6/03	U880 文学部(K503) 番原,田村;長坂 4/16 5/07 5/21 6/04 6/18 7/02	U885 理学部(K503) 田村,番原;高山,西野,枝向井,岩山 4/10 4/17 4/24 5/01 5/08 5/22	-
	-	U874 農学部(生命機能)(D618) 村尾;深山,三十尾 4/15 4/22 5/13 5/20 5/27 6/03	-	-	-
4	U871 経済学部A(K503) 森下,大月;小葉 4/14 4/28 5/19 6/02 6/16 6/30	U875 国際文化学部(K503) 村尾,佐藤;清光 4/15 4/22 5/13 5/20 5/27 6/03	U881 工学部(応用化学)(K503) 村尾;牧 4/16 4/23 4/30 5/07 5/14 5/21	U886 海事科学部A(K503) 鎌原;若林,長松 4/10 4/17 4/24 5/01 5/08 5/22	-
	U872 経済学部B(K503) 大月,森下;白浜 4/21 5/12 5/26 6/09 6/23 7/07	-	U882 工学部(情報知能)(D618) 清光;中村 4/16 4/23 4/30 5/07 5/14 5/21	U887 海事科学部B(D618) 平山;田邊 4/10 4/17 4/24 5/01 5/08 5/22	-
5	U888 再履修(K503) 伴,大月; 4/14 4/21 4/28 5/12 5/19 5/26	-	-	-	-

### 3. 「情報基礎」の歩み

2001～2003年 （2001年 情報リテラシー係設置）

各学部の新入生オリエンテーションで図書館の紹介

2003年11月

「情報基礎」担当教員より依頼があり初会合

図書館システムの紹介とOPACの実習で60分。

テキストの該当部分の作成も担当することに。

2004年2月

リハーサル・図書館部分のテキスト原稿を提出

（新入生オリエンテーションの中止を決定）

2004年4月 「情報基礎」開講

### 3-1. 担当授業の変遷

	担当回	内容	備考	改善案
2004	第6回前半 50分	図書館システムの紹介／OPACの実習／Webcat Plusの実習	新規開講	内容を絞った方が(教員より)
2005	第6回後半 30分		直前に時間短縮の要請あり	
2006	第6回前半 30～40分		テキストがWebのみに	もっと学生に身近な内容にしたい
2007	第6回前半 60分	レポート・論文作成のための情報リソースの紹介	力試し・課題・アンケートに参加	60分では時間が足りない
2008	第5回90分		WGで対応	
		※2008年は「レポートと引用」も担当		

## 4. 2007-2008年の経緯①

2007年度「情報基礎」終了後

総括と次年度に関する打ち合わせ

(「情報基礎」担当教員による)

2007年11月 情報リテラシー教育支援WGの設置

メンバー： 情報サービス課長、情報リテラシー係2名  
7館の情報サービス係より各1名

2008年2月 「情報基礎」担当教員と図書館との打ち合わせ

メンバー： 情報科学部会の部会長と幹事、2名の教員  
図書館事務部長、情報サービス課長  
情報サービス課長補佐 情報リテラシー係

## 5. 2007-2008年の経緯②

2008年3月 テキスト・アンケート・力試し・課題の準備

4月 異動によるWGメンバー交代

講義原稿の準備とリハーサル

「情報基礎」開講

5月 図書館担当授業スタート

7月 「情報基礎」終了

10月 再履修クラス

1クラスの体制

- ・担当教員
- ・講師(図書館職員)1名
- ・補助(図書館職員2~3名  
TA 2~3名)

## 6. 「情報基礎」(2008)の内容

第1回 学内共同利用のための環境

第2回 電子メール

第3回 インターネットの利用

第4回 インターネット社会でのセキュリティ

**第5回 情報の活用**

第6回 情報倫理

### 【目標】

レポートや論文などを執筆する上で心得ておくべき情報リソースの活用方法と、最低限のアカデミックマナーを身につけ、実践できるようにする。

## 7.「情報の活用」(2008)の内容

- 附属図書館各館室の紹介(パワーポイント)
- 図書館へGo!
  - ーレポート・論文作成のための情報リソース活用法ー
- レポートと引用 (ビデオ『著作物の引用と利用』前後編)
  - ・ カだめし(4択のクイズ)
  - ・ 課題(キーワードでOPAC・WebcatPlusを検索し、  
3～5冊分の参考文献リストの作成)
  - ・ 授業アンケート



# 情報基礎(5):情報の活用

## この回の内容

- [図書館へGo!](#)
- [課題レポート](#)
- [ちからだめし](#)
- [レポートの作成に向けて](#)
- [授業アンケート](#)

## この授業の学習目標

- 学内外の情報リソースを用いてレポートや論文などを執筆する上で心得ておくべき情報リソースの活用方法と、最低限のアカデミックマナーを身につけ、実践できるようにする。

## 図書館の活用とサービス

神戸大学附属図書館が開設しているホームページを中心として、ネットワークを利用した図書館の利用方法を紹介します。

- [図書館ホームページ](#)
- [図書館へGo! -レポート・論文作成のための情報リソース活用法-](#)
- [神戸大学各館室紹介](#)

## 情報基礎第5回 課題

指示されたテーマから1つ選んで、そのテーマの内容が述べられている図書を検索し、参考文献リストを作ろう。文献は3~5件とする。検索した参考文献リストのうち、神戸大学の附属図書館に所蔵しているものについては、配架場所、請求記号を付与しよう。

**検索の過程において使用したキーワードも合わせて記述しなさい。**

検索には、WebcatPlusやOPACを用いると良い。

1. デジタルコンテンツの著作権について  
キーワード: デジタル、コンテンツ、著作権、知的財産、映像、音楽、写真 (ほか)
2. 生態系の保護について

## 内容

- レポート・論文作成の道すじと情報リソースの活用
  - レポート・論文作成の基本的な道すじ
  - 基礎情報への入り口
    - Japan Knowledge
    - 聞蔵IIビジュアル
    - 日経テレコン21
  - 文献検索&収集の王道
    - 図書
      - ・OPAC
      - ・WebcatPlus
    - 雑誌論文
      - ・MAGAZINEPLUS
      - ・CiNii
      - ・電子ジャーナル
    - 学外から文献入手
      - ・オンライン申込
  - 大いなる近道～芋づる式で論文を探す
  - 落とし物はないですか？

- 楽しい道草ブラウジング～図書館を覗きの場所に

[図書館ホームページ](#)

[便利帳ア・ラ・カルト](#)

[第5回のトップページに戻る](#)

[テキスト\(PDF\)](#)

[図書館 情報リテラシー係](#)

# 情報基礎(5.1):図書館へGo!

## レポート・論文作成のための情報リソース活用法

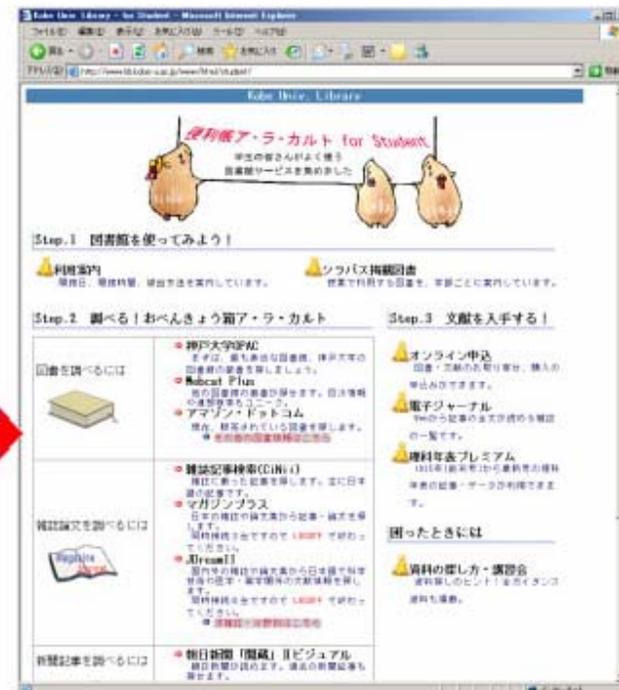
### レポート・論文作成の道すじと情報リソースの活用

学生のみなさんが卒業までの間に必ずしなければならぬことの一つに、**レポートや論文の執筆**があります。これは、**学生生活の中で、レポートや論文に関わる時間は、たぶんみなさんが想像している以上のもの**でしょう。

ここでは、初めてレポートを書くことと仮定して、**レポートや論文作成の基本的な流れと、その過程に応じてどのような情報リソースを活用すればよいのか**を説明します。紹介する情報リソースは基本的なもので、またよく使われるものですので、**図書館ページ(図1)の「便利帳ア・ラ・カルトfor Student」(図2)にまとめてあります。**

**図書館トップページ** : <http://www.lib.kobe-u.ac.jp>

**便利帳ア・ラ・カルトfor Student** : <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/www/html/student/>



## 内容

- [レポート・論文作成の道すじと情報ソースの活用](#)
  - [レポート・論文作成の基本的な道すじ](#)
  - [基礎情報への入り口](#)
    - Japan Knowledge
    - 間蔵IIビジュアル
    - 日経テレコン21
  - [文献検索&収集の王道](#)
    - 図書
      - ・OPAC
      - ・WebcatPlus
    - 雑誌論文
      - ・MAGAZINEPLUS
      - ・CiNii
      - ・電子ジャーナル
    - 学外から文献入手
      - ・オンライン申込
  - [大いなる近道～芽づる式で論文を探す](#)
  - [落とし物はないですか？](#)
- [楽しい道草ブラウジング～図書館を覗きの場所に](#)

[図書館ホームページ](#)

[便利帳ア・ラ・カルト](#)

[第5回のトップページに戻る](#)

[テキスト\(PDF\)](#)

[図書館 情報リテラシー係](#)



(図14) CiNii

データベースで見つけた雑誌論文を入手するためには、[蔵書検索システム](#) (神大学図書館のOPACもその一つ)で、雑誌名、[ISSN\\*](#)などを入力して探します。詳細画面(図15)では、[所蔵巻号\\*](#)、[配架場所](#)、[請求記号](#)を確認します。特に、探している文献が掲載されている巻号を所蔵しているかどうか、必ず確認してください。



知能と情報 : 日本知能情報ファジィ学会誌 : journal of Japan Society for Fuzzy Theory and Intelligent Informatics / 日本知能情報ファジィ学会 [編]

## レポートの作成にむけて

ここまで、Web上での情報収集、そして図書館での情報収集について、さまざまなことを学んできました。今後大学生として、また卒業後は社会人として、こうした技能を駆使して、レポート等を作成することが増えてきます。

しかし、正しい情報編集・発信のしかたを知らないで、レポートを作成すると、思わぬトラブルになりかねません。以下では、レポートを作成するときに最低限心得ておくべきことを学びます。

### レポートと引用

まず、ビデオを2つ見てみましょう。

教員のかたへ。ビデオはこちらです。

[1本目](#)

[2本目](#)

### よくある「ダメなレポート」：引用編

これまで、高校の「情報」や情報基礎の授業では、情報探索・検索のしかたを中心に教わってきたと思います。こうして集めた情報のうち、使える部分をコピーして、それをくっつけて文章にする、ということを、これまでされてきたかもしれません。

しかし、大学のレポートではそのようなことは許されません。これまで先人の手で築きあげられた文献や辞典、Web上の資料の読み込み、あるいは実験、社会調査などを通じて分かった**事実をもとに、自分の意見をまとめるべき物**です。

しかし、多くのレポートには、以下のような問題があります。

- **1冊の本や1つのWebページだけを頼ってレポートを書いている**  
1つのWebページや文献だけに頼ると、その著者の視点や意見に支配されがちです。多くの文献や資料を(Webに限らず)探る必要があります。
- **参考にした資料の中に記載されている〈ウソの事実〉に気がついていない場合がある**  
1つの事象には様々な人が様々な形でアプローチしています。したがって、たくさんの資料で同じようなことが記載されているのか、確認する必要があります。  
また、単一の答えがなく、様々な論争がある場合もあります。

最近では、プロの研究者の改ざん・ねつ造が社会問題になっていますが、皆さんもレポート作成、卒論執筆のときに、このようなことがないようにくれぐれも気をつけてください。

## ちからだめし

---

今回の講義の内容を復習するとともに、発展的な学習をするために、力だめし(簡単なクイズ)に進みましょう。

練習問題ですから、このWebテキストや、教科書や、Web検索などして調べながら回答してかまいません。また、満点をとらなければならぬという性格のものでもありません。ある程度きちんとできていれば大丈夫です。期限は、授業後土日祝含まず5日後の深夜23:59までです。

[第5回之力だめしへ進む](#)

## 授業アンケート(第5回)

---

情報基礎では、毎回、各単位に関する、アンケートを取らせていただきます。これは、今年度の授業の進め方を見極め、今後の授業内容を検討する上で参考にするためのものです。回答した内容で、成績が左右されることはありませんので、率直に回答してください。また、統計的に集計しますので、あなたの回答が特定される形で公表・公開されることは決してありません。

2. 3分程度で済む簡単なものですので、必ず回答してください。

[授業アンケートに進む](#)

上のリンクをクリックすると、ログインIDとパスワードが要求されますが、これは、各クラスのアンケートの回答者数の整理等の目的のためであり、個人を特定するものではありません。神戸大学アカウントのログインIDとパスワードを正しく入力してください。

## 8. まとめ

### 学生の反応

- ・・・レポートに役立つ・今後活用したい、という声が多い一方で、難しすぎる、退屈だとの声も。

### 教員との連携

- ・・・2月の打ち合わせが勝負という現状  
情報を密に得られる機会・・・どうやって作るか

### 今後の目標について

- ・・・詰め込みすぎず一年生に必要な内容に。  
オーダーメイドガイダンスの活用促進を。

感謝ありがとうございます

